

本田幸雄『豊後日出藩方言考』山香六郷社（2014）から得た法則について
—秋吉尚会員の卓話「大分の方言について」で使われた資料を読んで—

2018年6月12日

名古屋大学・明治学院大学名誉教授 加賀山 茂

私は、愛媛県宇和島の出身ですが、少年期を東京と大阪で暮らし、30代を相模原、40代を名古屋で暮らしたことがあり、いろいろな方言に接してきました。

特に、名古屋では、面白い方言（名古屋弁）に出会い、その法則を「あい」の法則と呼んで、時々使わせていただいております。つまり、標準語で「あい」という箇所が「えあ」に代わるという法則です。

例えば、「大根（だいこん）」は「であこん」に代わります。「町内会長（ちょうないかいちょう）」は、「ちょうにあけあちょう」に代わります。「どえらい」は、「どえれあ」に代わります。タモリが多用したことで有名となった「エビフライ」が「えびふれあー」に代わることも、その一例です。

先週、秋吉尚会員の卓話「大分の方言」で使われた『豊後日出藩方言考』という本をお借りすることができたので、その本を読みながら、日出方言についても、私なりのアカデミック？な方法で、法則を抽出してみました。その成果の一端を報告させていただきます。

現在のところ、以下の4つの法則を確認（発見？）することができました。

1. 「あい→ええ」の法則（名古屋弁に少しだけ近い）

赤い→あけえ、浅い→あせえ、危ない→あぶねえ、甘い→あめえ、塩梅→あんべえ、うまい→うめえ、兄弟→きょうでえ、こがいな→こげえな、それはないで→そりはねえで

2. 「え→い」の法則（日出方言の独自性？）

あれ→あり、これ→こり、それ→そり、誰→だり、食べてみる→たべちみる、乗っていく→のっちいく、読んでみる→よんじみる、開いている→あいちよる

3. 「おい→いい」の法則（これも日出方言の独自性？）

おもしろい→おもしろい、青い→あいい、という→ちいう

4. 「の（NO）→ん（N）」の法則（これも日出方言の独自性？）

この本→こん本、もの→もん、でも（MO）→でん（M）

秋吉会員からお借りしち読んじみた本は、アマゾンや日本の古本屋では入手できねえんぢ、日出町の本屋さんじ探しちみち、きちんと読んじ、更に発見をしちいと思つちよります。